みずほフィナンシャルグループのグリーンボンドフレームワークにおける調達資金の使途

みずほフィナンシャルグループは、2024 年 3 月 31 日現在の「資金使途報告書」の完全性、正確性および有効性について責任を有しています。

グリーンボンドの発行を通じた調達資金の全額と同額がみずほ銀行に融資され、みずほ銀行は以下に詳述する既存および新規の適格グリーンプロジェクトへの融資に充当します。当該グリーンボンドの調達資金が適格グリーンプロジェクトに充当されるまでの間、調達資金はオーバーナイト取引やその他の短期金融商品に投資されます。

株式会社みずほフィナンシャルグループ
取締役　兼　執行役　グループ CFO
米澤 武史

以下は、みずほフィナンシャルグループのグリーンボンドフレームワーク（2020 年 9 月策定）[*1]における調達資金の使途の抜粋です。

適格グリーンプロジェクトは以下の条件すべてを満たすものです。
i) 下記の適格プロジェクトカテゴリー(a)から(d)の少なくとも一つ以上に該当していること。
(a) 再生可能エネルギー
風力、太陽光、太陽熱、バイオマス（持続可能な原料または廃棄物に限る）、地熱（CO_2 直接排出量が 100gCO_2/kWh 未満のプロジェクトに限る）、発電量が 25 メガワット以下の小規模水力（調整池のない流れ込み式水力を含む）の再生可能エネルギーの発電施設の開発、建設、運営に関する事業。
(b) クリーン輸送
公共交通機関（化石燃料を使用するものを除く）の建設、運営、改修、および、鉄道、非電動輸送（自転車等）、電気自動車、マルチモーダル輸送の拡大と改善のためのインフラ・技術の開発、運営、更新に関する事業。
(c) 汚染の防止と管理
廃棄物のリサイクルや廃棄物処理発電等の汚染防止・管理のための施設の開発、建設、運営に関する事業。発電の燃料は、プラスチック／ゴム／タイヤ由来燃料（TDF）からエネルギー／燃料への変換、操業中の埋立地からのガス回収、およびフレアリングのための埋立地ガス回収を含まない家庭廃棄物、商業廃棄物、又は市場の廃棄物。
(d) グリーンビルディング
グリーンボンド償還までに、以下の認証の少なくとも一つを取得済みまたは取得する予定の建築物。グリーンボンドで調達された資金は、J-REIT（日本の不動産投資法人）が保有する物件を含め、下記の認証を取得した適格グリーンビルディングへのみずほ銀行による新規・既存の融資に充当されます。J-REIT 保有の適格グリーンビルディングへの充当額は、適格グリーンビルディングの取得価格の按分比例に基づき計算される場合があります。

o LEED（エネルギーと環境デザインにおけるリーダーシップ）： Platinum または Gold
o BREEAM（英国建築研究所建築物性能評価制度）： Outstanding または Excellent
o CASBEE 不動産評価認証（建築環境総合性能評価システム）：S ランクまたは A ランク
o DBJ Green Building 認証： 5 つ星または 4 つ星
o BELS（建築物省エネルギー性能表示制度）： 5 つ星または 4 つ星

ii) 上記のプロジェクトカテゴリー(a)から(c)のいずれかに該当するプロジェクトについては、エクエーター原則[*2] における評価上、カテゴリーB またはカテゴリーC に分類されること。

iii) みずほ銀行によるプロジェクトへの融資は、関連グリーンボンドの発行日から遡って 24 カ月以内に実施されたものであること、または発行日以降に新たに実施されるものであること。

長期資産に対して、複数のグリーンボンドによる調達資金によってリファイナンスを行う場合、みずほフィナンシャルグループは、本フレームワークに基づいて発行される最初のグリーンボンドの発行に先立って、当該資産の経過年数及び残存耐用年数を独立機関に開示し、当該機関が以降に示すアニュアル・レビューを実施する際に情報を更新します。提供された情報は、当該機関によるレビューを受け、長期資産の環境改善効果の持続性が確認されます。

以下は本フレームワークから除外されることを明記します。
化石燃料資産、化石燃料を利用した輸送機関／インフラ、主として化石燃料を輸送するインフラ及び輸送機関、防衛及び安全保障、パーム油、木材パルプ、原子力発電、石炭火力発電、並びに全ての鉱業及びたばこセクターに関連したプロジェクト。

[*1] グリーンボンドフレームワークについては、以下の「フレームワークの概要」を参照。
https://www.mizuho-fg.co.jp/csr/environment/business/greenbond/pdf/secondopinion_2020.pdf
[*2] エクエーター原則によると、カテゴリーA のプロジェクトは、環境及び社会に対して重大な負のリスク及び／又は多様で回復不能又は前例のない悪影響を及ぼす可能性があります。カテゴリーB のプロジェクトとは環境及び社会に対して限定的な潜在的リスク、又は影響を及ぼす可能性があり、そのリスクと影響の発生件数が少なく、概してその立地に限定され、多くの場合は回復可能であり、かつ、緩和策によって容易に対処可能なものを指します。カテゴリーC のプロジェクトとは環境及び社会に対しての負のリスク、又は影響が最小限、又は全くないものを指します。グリーンボンドによる調達資金は、上記のプロジェクトカテゴリー(a)から(c)のいずれかに該当するプロジェクトでカテゴリーB 又はカテゴリーC に該当する既存及び新規のプロジェクトに充当することができます。

みずほフィナンシャルグループ 資金使途報告書
（2024 年 3 月 31 日時点）

1. 債券発行による調達額

500 百万ユーロ
（みずほフィナンシャルグループ 500 百万ユーロ 0.214% シニア債 2025 年満期）

2. みずほ銀行への貸付

500 百万ユーロ

3. 2024 年 3 月 31 日現在の資金使途状況

(百万)

貸付者	カテゴリー	サブカテゴリー	プロジェクト数	貸付日 (年／月)	残高 (ユーロ換算額)
みずほ銀行	再生可能エネルギー	太陽光発電	2	2020/3～2022/7	48
		風力発電	5	2022/1～2023/12	138
	グリーンビルディング		9	2018/11～2020/2	317
合計					504

調達資金のうち、適格グリーンプロジェクトへの運用割合 100%